16/03/09

【ｱｼﾞｱ特Ｑ便】呉軍華氏「中国を視る」クリントン大統領よりもトランプ大統領を好む中国

ＱＵＩＣＫではアジア特Ｑ便と題し、アジア各国・地域の経済動向について現地アナリストや記者の独自の視点をニュース形式で配信しています。今回は、日本総合研究所理事・呉軍華氏がレポートします。

米実業家のドナルド・トランプ氏は2016年の米大統領選に向けた共和党の指名争いで一般選挙民から圧倒的な支持を勝ち取っているものの、共和党の執行部を含む内外からは激しいバッシングを受けている。しかし、面白いことに中国人と中国系アメリカ人の間で、民主党の指名争いで先頭を走っているヒラリー・クリントン前国務長官よりも、トランプ氏を好む人が多い。

ちなみに、最近の中国で、自由民主主義の価値観が批判されているが、米大統領選には大学や政府系シンクタンクから大量の学者が派遣されてきている。おかげで、筆者がワシントンにいながらも中国系アメリカ人だけでなく、習近平体制下の中国のアメリカ観を観察することができた。

クリントン大統領と比べて、トランプ大統領の方がより中国人、中国系アメリカ人に歓迎される理由として次の三つを指摘することができる。

まず、国家レベルの視点からみると、トランプ氏が大統領になった場合、より安定的な米中関係が期待できるとみられているからである。クリントン氏と同様、トランプ氏もこれまでの選挙キャンペーンでタフな対中姿勢をアピールしてきた。しかし、人権や価値観、安全保障など広範な範囲をわたって対中批判を繰り広げているクリントン氏と違って、トランプ氏の矛先は経済に集中している。たとえば、中国を為替操作国に指定することや中国からの輸入品に高率な関税をかけるなどである。政治・イデオロギーと一部の安全保障の面で対立しているものの、経済の面においてはむしろ互恵的という構造を持っている米中関係の特質からして、トランプ氏が大統領に当選した方がより安定的な米中関係が期待できるという発想である。

次に、個人的価値観や理念という視点からみて、中国人や中国系アメリカ人、とりわけ中産階級の中国系アメリカ人はトランプ氏と共鳴するところが多い。社会主義的実践が中国で惨憺たる災難をもたらしたという記憶を持つ中国人や中国系アメリカ人の間で、政策的に社会主義的色彩がますます強くなっている民主党に反発観を抱く人が急増している。

最後に、移民問題をはじめアメリカ社会の政治的タブーを次々と破って「暴言」を繰り返しているトランプ氏のスタイルが多くの中国人、中国系アメリカ人の目に強者として映され好まれる側面もある。

アメリカの伝統政治からみてトランプ氏、サンダース氏のようなアウトサイダーがメーンキャラクターとして登場し大きな旋風を巻き起こしていることに象徴されている通り、今年の大統領選は未踏の域に入っている。一方、政治・イデオロギーの価値観から安全保

障までの多くの分野で競争、ないし対立的構造が強まりつつも、経済的にある種の運命共同体として結ばれているアメリカと中国の関係も未踏の域に入ろうとしている。今回の大統領選が最終的にどのような結果になるか、そして、こうした結果が今後の米中関係にどのような影響を及ぼしていくのか、ますます目が離せなくなっている。